

猫で比較的来院の多い病気に「難治性口内炎」があります。この病気は「慢性口内炎」「歯肉口内炎」などさまざまな呼称があり、病名通り完治の難しい病気の1つです。



泉沢 洋一

泉沢動物病院長
(氷見市柳田)

猫の難治性口内炎

発症率は数%程度とそれほど高くはありませんが、一度症状が現れると治療の経過が長くなります。発症した猫は、歯肉や口腔粘膜に複数の強い炎症を起こし、激しい痛みを覚えます。そのため、食欲がなくなったり、食欲があっても食べるのができなかったりします。無理に食べようとすると、痛みから奇声を出すこともあります。

病気にかかった猫は、口臭がきつい、口の周囲がよだれや血液で汚れているといった特徴があります。また、毛づくろいができないため、毛のつやが悪くなったり毛玉ができたりします。

抗生剤を投与

この病気は、免疫機能の低下による口腔内の細菌の増殖や、



重度の歯肉炎を起こし、舌に潰瘍ができた猫

消毒し清潔に保てよう

べます。血液検査で腎不全や糖尿、FIVまたはFelVの感染の有無なども確認します。その上で、抗生剤やステロイド剤を投与します。必要なら、全身麻酔をして歯垢や歯石を取り除き、できるだけ口腔内を清潔にします。歯肉炎が著しいときは、抜歯することもあります。

軟らかい食べ物を

症状が緩和された場合は、歯磨きや口腔内の消毒、消炎鎮痛剤の投与で維持管理します。改善が認められなければ、一定の間隔で抗生剤を投与したり、ステロイド剤を連続投与したりすることが必要となります。

根本的な治療として、全ての臼歯を抜く方法もありますが、

発症した猫は、薬剤の長期投与が必要なケースが多いようです。獣医師とよく相談して治療を継続しましょう。

愛猫のQOL(クオリティ・オブ・ライフ=生活の質)の

FIV(猫免疫不全ウイルス)、FelV(猫白血病ウイルス)、FCV(猫カルシウイルス)の感染が原因だと考えられています。ただ、必ずしもこれらにより発症するわけではなく、原因は現在もはっきりとは分かっていません。性別や品種、年齢、食事の形態(ドライまたはウェ

ット)の違いで発症するわけでもなく、さまざまな要因が関係していると考えられています。治療は、猫の病状や年齢などを加味して進めます。獣医師の判断により違いはありますが、基本的には、治療に先立って、口内炎の原因となり得る歯垢や歯石の付着、歯周病の有無を調

病気が治るまでの期間は数日から数カ月と幅があり、治療率は60%程度といわれています。その他、口の中の全ての歯を抜いてしまつ、レーザーを当てて患部を焼き取る、痛みを軽減するといった方法も取られます。

向上のため、消毒などで口腔内を清潔に保ったり、食べ物を軟らかくして食べやすくしたりするなど、日常のケアに取り組んでください。

「いつも一緒に 富山のペットたち」は、毎月第一木曜日に掲載します。

2014(平成26)年 7月3日
北日本新聞